

モーリシャス豆知識・小話 第14号

2018年6月

在モーリシャス日本国大使館

(1) 日本人のDNA

今回のワールドカップでのサッカー日本代表チームの大健闘、観ていてワクワクしますね。まさかまさかの躍進ぶり。このメルマガが出る頃には決勝トーナメント進出を決めているかな。当地の人々からの祝福や賞賛の声に、単純な私はさも自分の手柄のごとく照れながら「メルシー！」を連発しています。

ワールドカップで同時に讃えられているのが日本のサポーターの礼儀正しさ、なかならず試合後のゴミ拾いでしょう。確かに我々は学校生活の中で掃除は自分達でするものだとこの身にたたき込まれましたね。私自身フランスにいたとき、小学校でも掃除は清掃人がするというにちょっとショックというか違和感を覚えた次第です。日本人がごく当たり前に取り組んできたことが世界標準ではないのですね。

我がサポーターたちの素晴らしさが生まれつきではなく日本の学校教育の成果であるならば、海外に暮らす邦人子女はどうなのだろう。そんな疑問が浮かんでいた私にとって、先般当地で開催された10人制ラグビー国際大会で目にした光景は嬉しいものでした。在留邦人の力の限りの応援に神戸製鋼ラグビーチームはよく応えてくれて、見事3位に入ったわけですが、その在留邦人の皆さんは、熱い応援の最中もゴミはきちんと持参した袋に入れておられました。それに倣って子供達も当然のごとく袋に入れているではありませんか。見れば我々の周りの他国人達は缶ビールやつまみを飲み食いした後片付けもせず、観客席は文字通りゴミ置き場と化していたのに。



ラグビー会場

ラグビーは3位でしたが、サポーターは間違いなく優勝だな、ここで暮らす子供達にも日本人のよき DNA はこうしてしっかり引き継がれているのだな、そう感じられた一日でした。

(2) モーリシャスのパスポート、販売します！

モーリシャスは7月が会計年度の始まり。6月14日にジャグナット首相の予算教書演説が行われ、現在国民議会では予算審議が賑やかに行われています。昨年は直前にインドからの5億ドルのクレジットライン供与が発表され、大型公共事業への振り分けが行われましたが、今年はそうしたサプライズはなさそう。そう見ていたら、えっ、という話題が耳に入りました。

首相が演説の中で、当国をより開かれた経済と国家にしていくとして、今後立ち上げるソブリン・ファンド（政府が出資する投資ファンド）に対し、返済不要の100万米ドルの出資を行った外国人には（その家族も1人につき10万米ドルの追加投資を行えば）モーリシャスの市民権を与え、50万米ドル（同家族は5万米ドル）を出資した外国人にはパスポートを与えるというプログラムを発表したことが大きな波紋を呼んでいるのです（当館注：市民権とは国籍付与なのか、パスポート交付にはどんな条件がつくのか等、現時点ではまだ不明点が多いところです）。

この2つのプログラムの運営（つまり審査等）は最近できたばかりの経済開発審議会（EDB）が行うということですが、これはまさに当国を魅力的な投資先として海外の富裕層を取り込む戦略なのでしょう。現在各界から、パスポートは売り物ではない！市民権に値段は付けられないはず！EDBは何様？国家の中に国家を置くようなもの、といった批判が続出しているようです。

政府としては、少子高齢化が確実に進む中、しかし中進国の罠にはまりつつあり、なんとか経済開発に弾みを付け、また膨大な財政赤字を減らす一挙両得どころか三得くらいの気持ちで提案したのかもしれませんが。他方で、目指すべきはカネを取り込むことなのか、この国に必要なのは人材育成であり、高度技術の移転であり、知識集約型社会の構築ではないのか、と言った識者の声も聞かれます。

多民族社会であり外国人に抵抗感を持つ人が少ない国だからこその発想かもしれません。これが他の国であればアイデンティティクライシスと大騒ぎでしょう。ただ、この国の人でさえ、本来のモーリシャス人しか持てない価値を

言わばカネで買った輩が生まれた、という倫理的な嫌悪感から、将来的には社会が不安定化するのではないかという懸念を持つ向きもあります。

極めてオープンなモーリシャスの社会ですが、経済発展を目指す中で今後どう変わっていくのでしょうか。予算案は6月末までに可決される予定です。

